

疊を龍鬚といふは、龍鬚の誤なり、そは席を造る草を龍鬚草といへり、その草の生茂たるが、龍の鬚に似たるより負せし名なり、晉東宮舊事に、太子有獨坐龍鬚之席、國清百録に、龍鬚席一領、唐書地理志に、鳳翔府土貢榛實龍鬚席などくさぐさ見えたれば、その誤はくはしく辨するに及ばざれど、吾邦にそのあやまり來れるも亦ふるし、雅亮裝束抄にりうびんを二枚しきて、寛治二年記に、龍鬚筵青地錦縁といふことあり、はやく已に遊仙窟に龍鬚席に作れり、注に燈心とあれば、蔭草なることしるべし、○下

〔三中口傳三條〕一鋪設裝束事

龍鬚事

青地錦縁弘三寸計四方著之

濃打裏ヲ付也、白生絹ヲ裏ニ付ル事ハ極非例也、或東京錦縁裏同前也、

后宮御所御裝束時、母屋帳臺外邊敷ノ上ニ敷之、

或大文高麗縁裏同前 立后并大饗時大臣座敷之、

以上寸法ハ、皆疊ノ面ト同寸法ニ可調也、敷時ハ四方ヲ所々疊ノ上縁并上下ニ左右頭ニ閉目

ヲ不見之閉付之、

〔雅亮裝束抄一〕もやひさしのてうどたつる事

はしかくしのまには、うげん二帖をおくのはしらにそへて、にしひんがしにしきて、うへにりうびんを二枚しきて、その上にしとねをしく、それもとづべしりうびんはいろくにまだらなるむしろに、あをぢのにしきのへりのひろさ三寸ばかりなるを四方にさしまはして、こきうちうらをつけたり、ひろさながさた、みにおなじ、

〔延喜式十五内藏〕諸國年料供進

龍鬚筵卅枚、細貫筵卅枚、右武藏國交易所進